

(別紙様式2-2)

## 道徳教育地域支援委託事業実施報告書(令和5年度)

### 1 学校の概要

- (1) 学校名 さぬき市立津田小学校  
(2) 所在地 香川県さぬき市津田町津田144番地  
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数 (令和5年4月1日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
1学級 16名	1学級 26名	1学級 34名	1学級 28名	1学級 19名	1学級 31名	3学級 7名	161名	13名

### 2 研究主題等

- (1) 研究主題 学びを自分ごととしてつなぐ児童の育成  
～ともにによりよく生きる地域道徳教育～

#### (2) 研究主題設定の理由

本校では、令和6年度香川県小学校教育研究会道徳部会研究発表会に向けて、令和4年度から学校教育目標である『ふるさと津田町を愛し、夢に向かってチャレンジする子どもの育成』のもと、「特別の教科 道徳」の授業改善を行ってきた。令和5年度からは、研究主題を『学びを自分ごととしてつなぐ児童の育成』とし、これまでの学びを「自分ごとの学び」の視点で見直し、研究を進めていくこととした。また、道徳教育の要として、ふるさとの豊かな自然や文化について再認識するとともに、それらを生かし、これからの「津田町」を学校・家庭・地域が共創していく地域道徳教育を推進するために、副主題を『ともにによりよく生きる地域道徳教育』と設定した。

#### (3) 研究内容及び方法

- ① 道徳教育の要として他教科等や家庭・地域社会と連携しながら地域道徳教育を構想し実施する。

##### ア 地域道徳教育の構想

- ・ 全教職員での児童の実態把握
- ・ 保護者、地域の願いの分析
- ・ 地域の魅力の再認識
- ・ 地域道徳教育年間計画、道徳別葉の見直し

##### イ 異校種(こども園・高等学校)や地域ボランティアの人たちとの交流と、地域課題に主体的に関わろうとする心情の涵養及びふるさとの特色を生かした地域教材の開発

- ・ 松原出前授業・親子松原清掃
- ・ 海岸清掃
- ・ 地域の人との交流や地域の自然を生かした体験活動
- ・ 地域ボランティアと一緒にリースづくり
- ・ 地元の方による津田の豊かな自然に触れる体験活動
- ・ 地域行事への参加

##### ウ 自分の役割を自覚し、他者を尊重し合うペア学年での交流(なかよし活動)の充実

- ・ 心の花を育てよう週間(校内人権週間)でのふれあい給食、なかよし活動

- ② 「単時間道徳学習」の在り方を、「自分ごとの学び」の視点で見直し、授業の質的改善を図る。

##### ア 単時間道徳学習の授業改善の取組

- ・ 「4つの学習過程」の提案
- ・ 授業公開
- イ 全教職員による「自分ごとの学び」の姿の共有と、それが見られた授業実践の交流
  - ・ 自分ごととして考えている児童の具体的な姿の共有
  - ・ 学びのモデル(授業づくりのポイント)、指導案形式の作成
  - ・ 模擬授業形式による事前研修
  - ・ 低・中・高学年同士での、同じ内容項目の事前授業公開
  - ・ 自分ごとの学びについて子どもの姿で検証していく研究討議
  - ・ 研究授業を通しての振り返りの共有
  - ・ 実践の積み重ねにより、自分ごととして考えている児童の姿の明確化

##### ウ 「ふるさと香川」や「新ふるさとの心」(県教育委員会作成)を活用し、「自分ごとの学び」となるよう地域の実態に応じた内容に再構成

- ・ 「わたしたちの海 瀬戸内海(2年):わたしたちのふるさと かがわ」
- ・ 「香川の味を守りたい(3年):わたしたちのふるさと 香川」

### 3 研究実践

#### (1) 道徳教育の要として他教科等や家庭・地域社会と連携しながら地域道徳教育を構想し実施する。

##### ① 地域道徳教育の構想

###### ア 全教職員での児童の実態把握

児童の実態として、以下の3点が挙げられた。

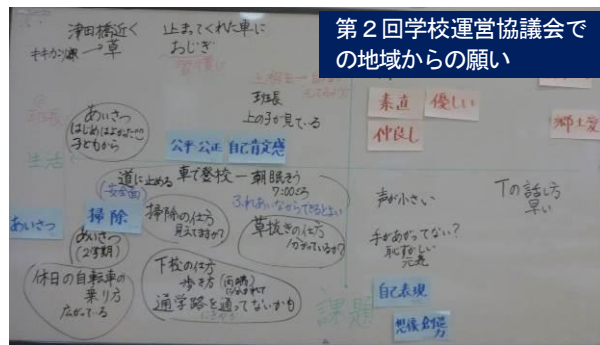
- ・ 素直で真面目である反面、主体的に考えて行動することが苦手である。
- ・ 単学級でクラス替えがなく、人間関係が固定されがちである。そのため自己主張をする必要がなく大きなトラブルには発展しないが、多様な考えに触れる機会が少なく、自分と異なる意見や立場を受け入れることに課題がみられる。
- ・ ふるさとの自然については、人、もの、ことに対して、「あって当たり前」という認識が強い。ふるさとは好きだが、そのよさを改めて知りたいとか行事に参加したいという意識には至っていない。



###### イ 保護者、地域の願いの分析

保護者アンケートや学校運営協議会で委員から出た願いとして、以下の3点が挙げられた。

- ・ 素直で優しく、ふるさが好きという心が育っている反面、あいさつや清掃についてはやらされ感があり、自ら進んで行うことに課題がみられる。
- ・ 公平・公正や自己表現、自己肯定感、主体的に生み出す創造力などに課題がみられる。
- ・ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目が児童の課題であると感じている。



###### ウ 地域の魅力の再認識

今まで行ってきた教育活動を、改めて「津田町を元気にしよう」の視点で見つめ直した。総合的な学習の時間の計画を拡大したものを職員室に掲示しておき、地域のどのような「人、もの、こと」を活用できそうか、全教職員で付箋に書いて貼り、意見を出し合った。それをもとに道徳教育推進委員会で検討した後、各学年団で次年度の生活科、総合的な学習の時間を含めた地域道徳教育年間計画(案)を作成した。地域のよさを生かした体験活動を通して、道徳的心情を育むことができると考えた。



## エ 地域道徳教育年間計画、道徳別業の見直し

地域道徳教育年間計画(案)、道徳別業(案)を基に、総合的な学習の時間の体験活動と、各教科、学校行事、道徳科等との関連が図れているか、各学年団で年度初めに見直しをした。

5年

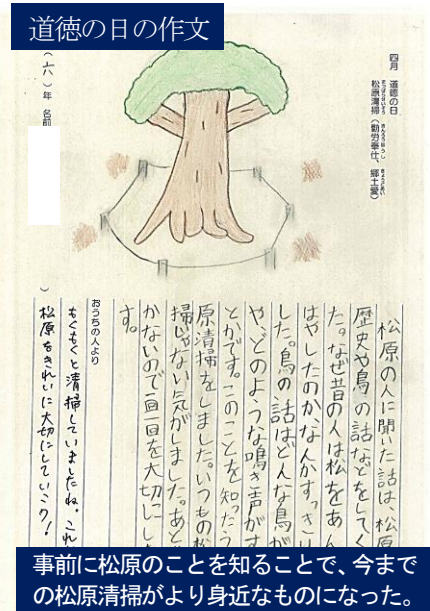
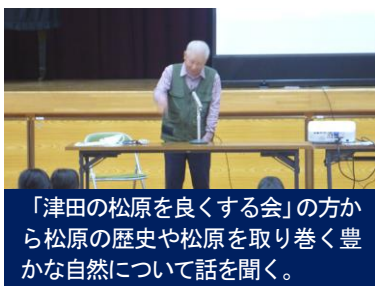
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
学習指導要領	道徳(1)	道徳(2)	道徳(3)	道徳(4)	道徳(5)	道徳(6)	道徳(7)	道徳(8)
生活目標	道徳(1)	道徳(2)	道徳(3)	道徳(4)	道徳(5)	道徳(6)	道徳(7)	道徳(8)
道徳	道徳(1)	道徳(2)	道徳(3)	道徳(4)	道徳(5)	道徳(6)	道徳(7)	道徳(8)

地域道徳教育年間計画を見直したあと変更した点を道徳別業に書き加えた。

### ② 異校種（こども園・高等学校）や地域ボランティアの人たちとの交流と、地域課題に主体的に関わろうとする心情の涵養及びふるさとの特色を生かした地域教材の開発

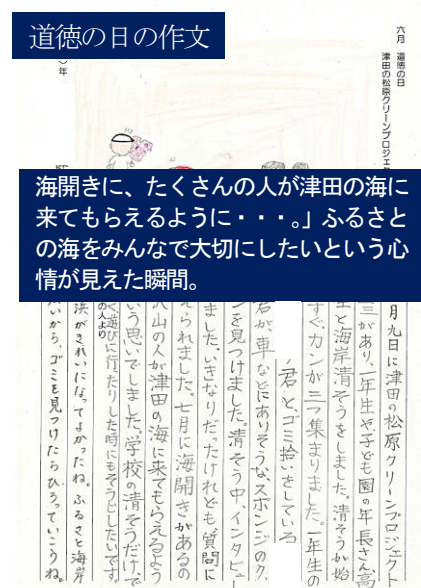
#### ア 松原出前授業・親子松原清掃

今まで行っていた松原清掃を、子どもたちがより自分ごとに関じられるよう、今年度は清掃前に、長年「津田の松原」の保全活動をされている地域の方に、津田の松原の歴史や役割、素晴らしさについて子どもたちに話していただいた。子どもたちは、松原への思いを新たにしながら清掃に取り組んでいた。



#### イ 海岸清掃

地域の高校生、こども園の園児、津田小学校の児童で海岸清掃を行った。児童は、この後に実施される海開きに向けて「たくさんの人が津田の海に来てもらえるように」という思いで清掃をした。ふるさとの海をみんなで大切にしたいという心情が見えた、ほのぼのとした瞬間だった。



## ウ 地域の人との交流や地域の自然を生かした体験活動（5年：ふるさと宿泊学習）

昨年度までは屋島集団宿泊学習を行っていたが、今年度は地域の人との交流や地域の自然を生かした体験活動、施設の見学を通して、ふるさと津田町のよさを再認識し、地域に対する愛情や理解を深めることをねらいとして、ふるさと津田町での宿泊学習を実施した。

### 【体験活動の実際】

#### ・ 地元のうどん研究会によるうどん打ち体験

津田町のうどん研究会の方に教えてもらいながら、小麦粉をこね、こしを出すために足で踏み、生地を麺棒で伸ばす体験をした。その後、お接待を受け、ゆでたてのうどんをおいしくいただいた。研究会の方と交流をするうちに、児童の緊張もほぐれ、楽しく作業を進めることができた。



#### ・ ドルフィンセンターでのトレーニング見学、えさやり体験

飼育員の方から、ドルフィンセンターの取り組みやイルカの特性について話を聞いた後、えさをやり体験をした。イルカの愛らしさに児童は自然と笑顔になっていた。その後、イルカのトレーニングを見学した。津田湾（蟹甲湾）の美しい海を背景に、イルカが高くジャンプする姿は圧巻であり、大きな拍手を送った。



#### ・ 地元の海産工場見学

安全安心でおいしいものを消費者に届けるために、様々な工夫をしながら商品を作っていることを知った。ゆでたてのちりめんの味は格別で、何回もおかわりをしていく。自分の住んでいる地域に、おいしいちりめんを作り、日本各地や世界とつながっている工場があることを初めて知ったという児童が多かった。



#### ・ すなはまスタンプ

夕食後、宿泊施設前の砂浜で「夕べのつどい」を行った。PTA役員の方がライトをセッティングして砂浜を明るく照らしてくださったおかげで、グループごとに劇やゲームなどの出し物をして、砂浜で思う存分楽しむことができた。波の音を聞きながら、ふるさとの砂浜で、友達との楽しい思い出を作ることができた。



#### ・ 松原の美しさを実感するシーカヤック体験、環境海ゴミ探検隊活動

ペアの友達と力を合わせて、カヤックで海に漕ぎ出した。海から白砂青松の津田の松原を眺め、松原の美しさを実感することができた。海ゴミ探検隊では、海岸に落ちているプラスチックごみが自然に与える影響について話を聞いた。実際にゴミ拾いを行ってみると、美しく見える砂浜にもたくさんのプラスチックごみが落ちていることに気付いた。



## エ 地域ボランティアと一緒にリースづくり（1年：生活科「あさがおのつるでリースづくり」）

1年生活科「きれいにさいてね」では、あさがおの種をまき、世話をし、大きく成長した様子を伝えたりたたきぞめにしたりする学びの場がある。そこで、10月の「リースづくり」の際に、地域ボランティアの方々からリースの作り方を教えていただく活動を取り入れた。短時間できれいなリースをつくることができ、地域の人と交流を深めることもできてよかった。



### 【地域道徳学習単元計画（1年）】

どんな気持ちで植物や動物の世話をすればいいかについて考え、 優しい気持ちで動植物に接しよう			
	時期	学習内容	児童の意識の流れ
①	5月	生活科「たねをまこう」 「せわをしよう」	あさがおの種を植えたよ。 早く芽が出てほしいな。
②	6月	生活科「せわをしよう」 国語「おおきくなった」	葉っぱが大きくなったよ。つるが伸びてきたよ。 支柱を立てよう。
③	7月	生活科「はなのようすをつたえよう」	蕾ができたよ。きれいな花が咲いたよ。
④	7月	生活科「なつのおそびずかん」	たたき染めにしたよ。きれいだな。
⑤	9月	道徳「あさがお」（本時） D-（18）自然愛護	あさがおと仲良くなれたと思うよ。ずっと、育ててきたからね。 これからも、虫や花と仲良くしていきたいな。

⑥	10月	生活科「たねをとろう」 「リースづくり」	1本のあさがおから、こんなにたくさんの種が取れるんだな。 <b>地域ボランティアの方々と一緒に、つるをリースにして飾ろう。</b>
---	-----	-------------------------	--

### オ 地元の方による津田の豊かな自然に触れる体験活動（4年：津田っ子自然守り隊）

- ②総合「ハマヒルガオの会の方から話を聞こう」  
「津田町は自然が豊かですばらしい。特に海がきれいで、他の地域の人に自慢したい。でも昔よりも海岸の環境が悪くなり、植物が少ない。ハマヒルガオは群生しているところが少なく、増やしていくことで津田町の名所になってほしい。」という願いを聞いた。
- ③総合「地引き網体験」  
津田の漁師さんから、津田の海を含む瀬戸内海は潮の流れが速く海草などのエサが多いことから、身のしまった、多くの種類の魚介類が捕れる一方、漁をしているとプラスチック類などのごみが網にかかることがよくあるという話を聞き、海の豊かさや問題点について気付く機会となった。



### 【 地域道徳学習単元計画（4年） 】

郷土の環境をよりよくするために、自分ができようことを考えよう			
	時期	学習内容	児童の意識の流れ
①	9月	総合的な学習の時間 「海岸の植物を観察しよう」	ハマヒルガオ以外にも、様々な植物が生えていたね。
②	10月	総合的な学習の時間 「ハマヒルガオの会の方から話を聞こう」	津田の松原の海岸を守るために、 <b>地域の人がかんばってくれているんだな。</b>
③	10月	総合的な学習の時間 「地引き網体験」	津田の海では、こんな魚が捕れるんだ。でも、ごみも多くて <b>漁師さんは困っていたね。</b>
④	10月	学校行事「松原清掃」	自分たちの松原、「七福神の松」をきれいにするぞ。
⑤	10月	総合的な学習の時間 「松原や海岸の良さを伝えるパンフレットを作ろう」	調べた海岸の植物や地引き網で体験した海の良さや課題を「すなはまフェスティバル」に来てくれた人たちに伝えるぞ。
⑥	10月	総合的な学習の時間 「海辺を良くするために頑張っている方から話を聞こう」	津田以外にも、海辺を良くするために頑張っている人がいるね。津田の海岸をより良くするためにはどうすればいいだろう。
⑦	11月	道徳「琵琶湖のごみ拾い」 (本時) C 勤労、公共の精神	働くことには意味があり、何か(誰か)の役に立っている。
⑧	12月	総合的な学習の時間 「これまで学んだことをまとめよう」	1、2学期に学んだ松原や海岸の環境について発表できるようにまとめて、お家の人に伝えよう。

### カ 地域行事への参加（6年：「すなはまフェスティバル」に参加しよう）

- ①総合「すなはまフェスティバル」を知ろう  
すなはまフェスティバルに関わる人々の願いや思いに気付くために、実行委員長を招き、今までの取組について話を聞いた。①津田の活性化を図る ②SDGsの観点でごみを出さない、この2点を大切にしていることに気付くことができた。この2点を大切にしつつ、津田の魅力をみんなに伝えることができることは何だろうと考え、話し合いながら計画を立てた
- ②総合「津田の魅力マップ」を作ろう  
夏休みにインタビューをしたお店や人を紹介する「津田の魅力マップ」を作るようになった。しかし、調べた魅力を1枚のマップに全て載せることはできない。そこで、まとめたものを津田小学校のホームページに載せてもらうようになった。津田高校「TDあくてい部」が発行している新聞に載っているQRコードを見つけ、そのQRコードの作り方や、作成した「津田の魅力情報」の修正など



を津田高校「TDあくてい部」のみなさんに教えてもらった。高校生の視点も聞きながらより分かりやすく伝えるにはどうしたらいいのかを学ぶ機会になった。

・ ⑦総合「すなはまフェスティバル」に参加しよう

「すなはまフェスティバル」では、自分たちを応援してくれている家族の存在や地域の方々の思いに触れることができた。津田を元気にしている人々との関わりやインタビューから学んだことを通して、全校生や津田こども園の園児、来場してくれたお客さんに、地域の一員として津田町のよさや魅力を伝えることができた。後日、松葉と松ぼっくりの着火剤を購入してくれた津田子ども園のみなさんから、着火剤を用いて作った焼き芋が届いた。



・ ⑧総合 カンボジアに大学を設立した猪塚さんの話を聞こう

ふるさとを離れ、カンボジアで活躍している猪塚さんの話を聞いた。ふるさとを守るために、自分に何ができるのか。ふるさとを守ることができる力をつけたり経験を積んだりするために、ふるさとを出る選択は悪くないという猪塚さんの話だった。猪塚さんは、現在ふるさとを離れても、ふるさとはなくなってほしくないという思いがあり、ふるさとのために何ができるかを考えている。ふるさとを大切にする思いはどこにいても変わらないし、様々な方法があるのだという、新たな視点を子どもたちは学んだ。



【 地域道徳学習単元計画（6年） 】

郷土をよりよくするために、自分にできることを考えよう			
	時期	学習内容	児童の意識の流れ
①	9月	総合的な学習の時間 「すなはまフェスティバル」を知ろう	秋にある「すなはまフェスティバル」について <b>実行委員長さんに教えていただいたよ。</b> SDGsの目標達成を意識した地域活性化イベントなのだね。そこで、津田のよさや魅力をみんなに伝えたいな。紹介できるよ、津田のよさや魅力を考えよう。
②	9月	総合的な学習の時間 「津田の魅力マップ」を作ろう	夏休みにインタビューをしたお店や人を紹介するよ。まとめたものを「津田小学校ホームページ」に載せるよ。 <b>津田の魅力マップを作るためのコツを津田高校の人たちに教えてもらおう。</b>
③	9月	総合的な学習の時間 「すなはまフェスティバル」の計画を立てよう	津田のよさや魅力を知ってもらうためにはどうすればいいだろう。ごみを出さないようにしたり、街を元気にしたりするために自分に何ができるだろう。
④	10月	道徳「海の牧場～野網和三郎～」 A-(6)真理の探究	つまづいたときは、違う方法を工夫して、困難を乗り越えよう。最後まであきらめずがんばろう。
⑤	10月	総合的な学習の時間 「すなはまフェスティバル」の準備をしよう	津田のよさや魅力を伝えるためにどんな工夫をしたらいいだろう。津田のよさや魅力が伝わるよう、もう少し詳しく調べたり、工夫を考えたりしよう。
⑥	10月	道徳「ようこそ、菅島へ！」(本時) C-(17)伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心	受け継がれてきた郷土の伝統と文化を大切に、発展させていこう。地域の一員として、自分に何ができるかな。
⑦	11月	総合的な学習の時間 「すなはまフェスティバル」に参加しよう	<b>地域の一員として、津田町のよさや魅力をみんなに伝えよう。</b> 津田町を元気にする仲間を増やして、みんなで津田町を元気にしよう。
⑧	12月	総合的な学習の時間 カンボジアにキリロム工科大学を設立した猪塚さんの話を聞こう	<b>ふるさとを離れても、ふるさとのために何ができるかを考えている。</b> ふるさとを大切にする思いはどこにいても変わらないし、様々な方法があるのだな。

③ 自分の役割を自覚し、他者を尊重し合うペア学年での交流（なかよし活動）の充実

ア 心の花を育てよう週間（校内人権週間）でのふれあい給食

- ・ ペア学年の同じ班の子たちとの給食  
いつもの教室ではなかったこと、一緒におしゃべりしながら給食を食べたことで心の距離が縮まったように感じられた。  
「1年生とたくさん話ができよかった。」「食べ終わるのを待っていてくれてうれしかった。」などの感想が出ていた。



イ 心の花を育てよう週間（校内人権週間）でのなかよし活動

- ・ なかよし活動の計画  
朝の活動の時間に、ペア学年で遊ぶ場所や内容を決めた。下の学年の子の希望を取り入れながら、みんなで話し合っただけで決めた。
- ・ なかよし活動（昼休み）
  - 1、6年 教室または運動場、松原
  - 2、5年 教室またはプレイコート、松原
  - 3、4年 教室または体育館、運動場、松原 で活動した。
 松原を開放したため、松原でおにごっこを楽しむ子どもたちが多く見られた。一緒に遊ぶことで相手の得意なことがわかり、認め合うことができていた。松原からの帰りに、下の学年の友達をおぶって帰る姿も見られた。どのペア学年も、相手のことを考えながら活動ができていた。
- ・ なかよし活動の振り返り（活動後）  
「1年生が楽しそうで、こちらも楽しい気持ちになりました。」「今までより、もっと仲よくなれてうれしい。」「みんなで楽しめました。またやりたいです。」「一緒に逃げるのができて楽しかった。これからも続けていきたい。」「2年生が笑顔で楽しそうだったからよかった。」「これからも遊んだりお話をしたりして仲よくしたいです。」など、相手のことを考え、これからももっと仲よくなりたいという感想が出ていた。



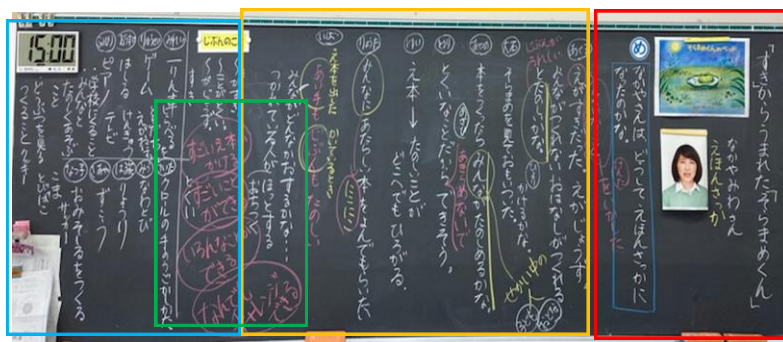
(2) 「単時間道徳学習」の在り方を、「自分ごとの学び」の視点で見直した授業の質的改善

① 単時間道徳学習の授業改善の取組

ア 「4つの学習過程」の提案

- ・ 「問題をもつ」…共通学習課題を設定する。
- ・ 「追求するⅠ」…主人公の言動や生き方から道徳的価値を追求し把握する。
- ・ 「追求するⅡ」…資料から離れて「自分ごと」として改めて捉え直す。
- ・ 「つなげる」…実践への意欲化を図る。

児童の実態から、資料から離れて「自分ごと」として考えを深めていく「追求するⅡ」に重点を置いた「4つの学習過程」を提案した。



「板書例 一年 『すき』から生まれた『すけまめくん』」

## イ 授業公開

授業を公開し、「自分ごととして考えられるようにするための手立て」「自分ごととして考えている児童の具体的な姿」について、授業参観シートに感想や気付いたこと等を書いていった。



授業参観シートに気付いたことや感想などを書いて、授業者に渡す。

授業参観シート

大題のみの部分を記入し、見ていただきたい方に渡す。

日時: 令和5年 月 日 ( ) ( ) 校時

授業者名: ( )年( )組 授業者( )

「教材名」: 「 」

「内容(項目)」: ( )

自分事として考えられるようにするための手立て

想定している自分事として考えられている児童の具体的な姿

参観後の感想・指導: 参観者名( )

教書や紙、メモ等

## ② 全教職員による「自分ごとの学び」の姿の共有と、それが見られた授業実践の交流

### ア 自分ごととして考えている児童の具体的な姿の共有



自分ごととしてつなぐ学びの具体(主体的、自己調整力、メタ認知)

#### 課題設定、見通しの場面

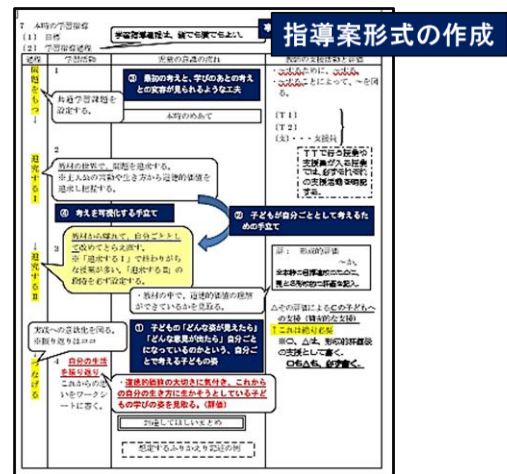
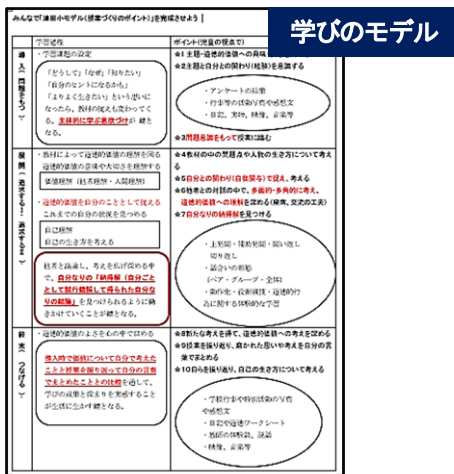
既習の資質・能力や興味、関心、学習に関わる経験などを軸かせながら、対象に対して問いを持ったり、考えを深めたりする。

音楽的に〜もがらん?と意見を出す姿、	学習内容と自分の実生活とつなげる姿、	家族や近所の人と一緒に食べたいと思う姿、	自分の家のまわりさがそうとする家の人や近所の人いる姿、
自分の知っていることがらでいける姿、	津田小のいいところを具体的にどこかを自分の考えで言える説明できる姿、	津田には自慢できる名物や特産物がたくさんある。もっとたくさんの人に知って欲しいと思う姿、	ハマロンがなくて知りたい。すごいどんな花?どこ見たことない。数が少ないのでは
自分も給食やそうじ、祭活動などに一生懸命取り組み、みんなのために役立つ姿、	一生懸命がんばることのよさについて考え、みんなの役に立つ姿、	松原ってすごい?、	津田小学校に入学が楽しみがあるやと津田小と

「課題設定、見通しの場面」「交流の場面」「振り返りの場面」での『自分ごととしての学びの具体』について付箋に書いて貼る。

## イ 学びのモデル(授業づくりのポイント)、指導案形式の作成

授業づくりのポイントについては、「みんなで学びのモデルを完成させよう」のもと、「四つの学習過程」でのポイントを、児童の視点で作成した。



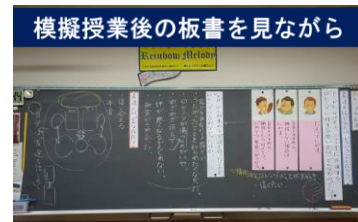
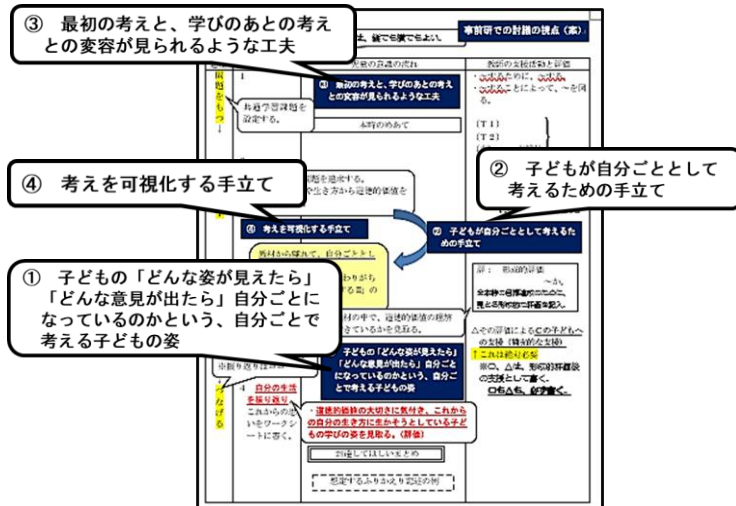


## ウ 模擬授業形式による事前研修

事前研修では、授業者が作成した指導案をもとに、

- ・ 子どもたちの「どんな姿が見えたら」「どんな意見が出たら」自分ごとになっているのかという、自分ごとで考える子どもの姿
- ・ 子どもが自分ごととして考えるための手立て
- ・ 最初の考えと、学びの後の考えとの変容が見られるような工夫
- ・ 考えを可視化する手立て

の4点を討議の視点として定め、教員が子ども役をしながら、模擬授業形式で行った。



## エ 低・中・高学年同士での、同じ内容項目の事前授業公開

事前授業を行う教員は、本時に行う手法を使って授業を行い、参観者は、その授業から本時の授業展開を見直し、子どもたちの反応を確かめた。



## オ 自分ごとの学びについて子どもの姿で検証していく研究討議

事前研修会や各学年団での公開授業等で改善されたものを基に授業を行った。授業後の研究討議では、自分ごとの学びについて子どもの姿で検証した。また、香川大学教職大学院 清水頭人准教授、香川県教育委員会事務局 義務教育課、同東部教育事務所の担当指導主事に指導、助言をいただいた。

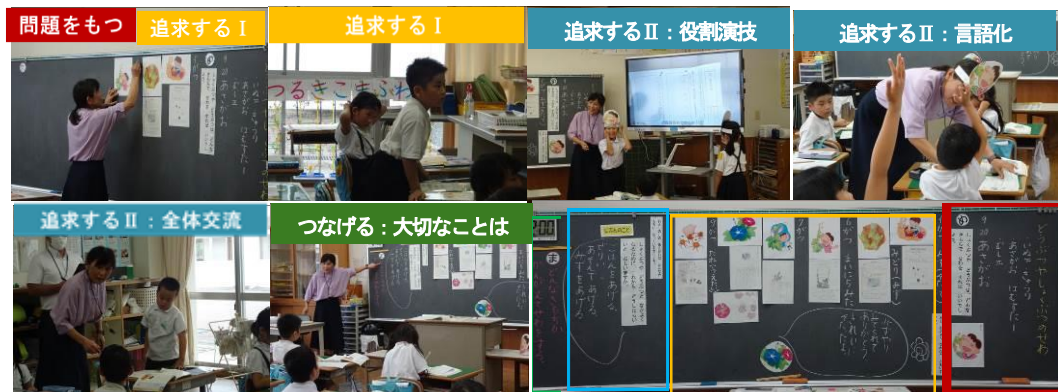
### 【6年：「ロレンツの友達」B(10)友情、信頼 (光村図書)】

討議では、「相互関係で成り立つ友情、信頼を、ロレンツの思いが出ていないこの教材で『お互いに』を感じさせる工夫」「授業前と授業後の考えを、児童が自ら振り返り変容を実感できる工夫」「児童が言語化しにくいものを言葉にしていく過程を大事にしていく」等の自分ごととして考える効果的な方法について意見交換ができた。澁田指導主事からは、実際の事例だと意見が言いにくいので教材の活用が大切であること、山内指導主事からは、道徳的諸価値の理解について、子どもたちが安心して発言できる場づくり、一人一人に応じた価値付け、説話、ICTの活用について指導、助言をいただいた。



**【1年：「あさがお」D(18)自然愛護（光村図書）】**

討議では、「教材と自分がしたお世話を行き来するための観察記録や教師の声かけ」「アサガオの気持ちに気付くための役割演技」「自分ごとと教材は行き来することもあること」「児童が思いを言語化できるようにするための聞き返し」等、低学年で相手の気持ちを考える効果的な方法について意見交換ができた。澁田指導主事からは、「自然愛護の価値を普段の日常でも感じられるようにする大切さ」について、安本主任指導主事からは、「今までの自分を振り返ること」や「あさがおに置き換えて考える」等、自分ごととしてつなぐ学びの具体について指導、助言いただいた。



**【4年：「琵琶湖のごみ拾い」C(14)勤労、公共の精神（光村図書）】**

討議では、「自分ごとにつながる効果的な問いかけ」「本当の自分が出るような交流の工夫」「教材と同様の経験をしていることが自分ごとにつながっている」「自分を振り返る手立てとしての写真や動画の準備」「時間配分」など、自分と教材を行き来しながら考えを深めていく効果的な方法について意見交換ができた。清水准教授からは、「勤労・公共の精神の価値理解」「地域道徳教育を意識した取組」「道徳科における評価」について、山内指導主事からは、「生きた教材が身近にあり、それを取り上げながら授業をしている素晴らしさ」「本音を書ける学級経営の大切さ」等、総合的な学習の時間とつなげつつ軸足を道徳科においた学びの具体について指導、助言をいただいた。



## カ 研究授業を通しての振り返りの共有

- ・ 研究授業を通して学んだ自分の課題や今後生かしたいことを付箋に書き、振り返りシートに貼る。
- ・ それらを、次回までに実践する。時間的に無理があるときには、当年度中に実践する。
- ・ 実践でき次第、成果と課題等を緑の付箋に朱書きする。

これらの振り返りシートは目につきやすいように印刷室に掲示し、教員間で振り返りの共有を図った。



研究授業を通して学んだ自分の課題や今後生かしたいこと

- ① 授業を通して学んだ自分の課題や今後生かしたいことを、緑の付箋に書いて貼る。
- ② 次回までに、各自が実践する。(無理な場合は、当年度中に実践する。)
- ③ 実践でき次第、成果と課題等を緑の付箋に朱書きする。

## キ 実践の積み重ねにより、自分ごととして考えている児童の姿の明確化

学期末の振り返り(教員)の際に、「まんだらチャート」を用いて「自分ごとの学び」を子どもの姿で捉え直すとともに、日々の授業実践を通して「自分ごと」についてのイメージの変容を見ていった。

わかる	楽しい	聞く
できる	<b>自分ごと</b>	話す
相手のことを思いやる	変える	行動する
そんなに簡単に解決しない	自分だったらどうするか変える	悩む
自分と比べて話を聞く	<b>自分ごと</b>	分からないことを相手に聞こうとする
次の疑問が湧く	もっと知りたいと思う	具体的な策を考える

まんだらチャートを用いて

左記のような、「まんだらチャート」の真ん中に「自分ごと」を入れ、そのまわりに「自分ごと」から連想することについて書いていった。

この「まんだらチャート」に書いている「自分ごと」について共有する。

毎学期末に、現教で学期の振り返りをするときに行い、「自分ごと」についての変容を見ていく。

「自分ごとの学び」についてイメージの変容(教員)

### 【7月】・・・自分だけに向いていた「自分ごとの学びの姿」

(子どもの姿の実際)

- ・ できることは**する**。 ・相手の気持ちを**考える**。 ・自分だったらどうするか**考える**。
- ・ 自分だったらと**考える**。 具体的な策を**考える**。 ・実際の出来事からつながることを**考える**。
- ・ 友達の話真剣に**聞く**。 ・分からないことを相手に**聞こうとする**。 ・自分と比べて話を**聞く**。
- ・ 体験や経験と**つなぐ**。 ・次の疑問が**湧く**。 ・もっと知りたいと**思う**。 ・**傍観しない**。
- ・ 生活の中で、道徳の時間に学んだことを思い出し、**生かそうとする**。 ・**感情が揺れ動かされるもの**。
- ・ 分かっているようで**分からない**。 ・**誰のものでもない**。

### 【12月】・・・周りにも広がってきた「自分ごとの学びの姿」

(子どもの姿の実際)

- ・ **悩んで**言葉にできない。 ・自分の**体験とつなげて発言**する。 ・**心が揺れている**。
- ・ **前向きに**課題に向かう。 ・人の考えを聞いて、それに対しての**質問や自分の考えを言う**。
- ・ **集団のために**、自分にできることは何かを考えて行動する。 ・**人の考えとの違い**に気付いている。
- ・ 人の考えを聞いて、自分ならこうするのに**どうして?と聞ける**。
- ・ 友達の困った感により**そう**ことができる。 ・**相手の考えを**しっかりと**聞いている**。

③ 「ふるさと香川」や「新ふるさとの心」（県教育委員会作成）を活用し、「自分ごとの学び」となるよう地域の実態に応じた内容に再構成

ア 2年「わたしたちの海 瀬戸内海」C(15) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心（ふるさとかがわ）

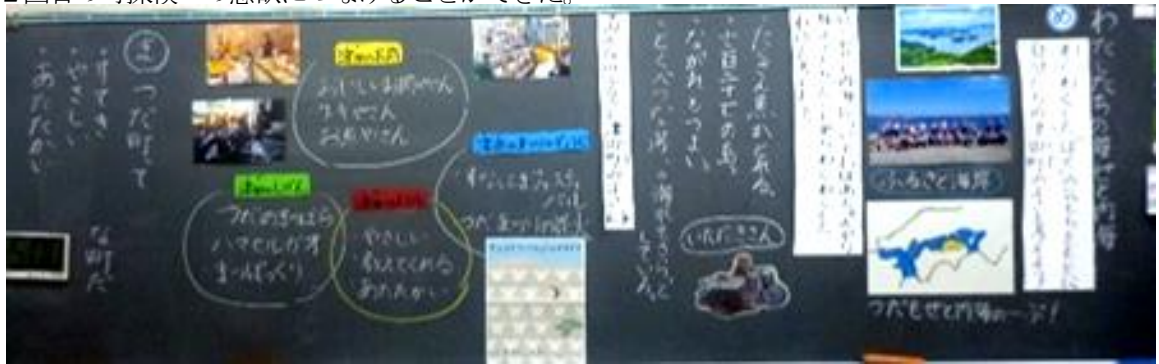
・ ①生活「どきどきわくわくまちたんけん」

ふるさとである津田町の人や場所に親しみをもつために、児童が自ら関心を持った津田町のお店に見学に行き、自分たちで考えた質問をした。お店の人の商品を作る時の思いやお店のおすすめ商品などを知り、町探検を通して、児童はさらに津田町のことを知りたいという気持ちになった。



・ ②道徳「わたしたちの海 瀬戸内海」C(15) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心

この教材の中心価値は「D(19)感動、畏敬の念」である。しかし、この中心価値を「C(15)伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心」に変更し、今まで津田町にあるお店という視点で町探検を行っていた児童の思考に、津田町の自然や文化、町に住んでいる人とのふれあいを深めていく視点を加えたいと考えた。授業では、瀬戸内海の美しさや素晴らしさに触れ、郷土や自然に愛着を持ち、これまでに2年生で行った町探検や津田町に関わった行事などを思い出しながら、自分たちのふるさとである津田町を大切にしていこうとする心情を高めた。「人、もの、こと」において津田町の魅力を再確認し、2回目の町探検への意欲につなげることができた。



・ 生活「もっとなかよしまちたんけん」

以前の町探検で培った地域に対する興味や関心をさらに深める為、ふるさとにある図書館や公民館へ行き、知りたいことを詳しく質問した。また、それぞれの場所での体験活動を通して、町にある施設を大切にしたい気持ちやまた行きたいという思いが高まり、ふるさとへの愛着を高められた。



【 地域道徳学習単元計画（2年） 】

ふるさとをよりよくするために、自分にできることを考えよう

	時期	学習内容	児童の意識の流れ
①	9月	生活「どきどきわくわくまちたんけん」 高原精肉店、土井鮮魚店、三好松月堂を見学	津田町にあるお店や施設を見学して、 <b>ますます津田町が好きになったよ。</b> 地域の人はみんな津田町や津田に住む人のことを大切にしていることがわかったよ。
②	10月	道徳「わたしたちの海 瀬戸内海」 C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心	瀬戸内海はきれいで、たくさんの生き物が住んでいる海だ。自分たちの町にある津田海岸も瀬戸内海の一部だなんて素敵だな。これからも津田町のよさを見付けて、 <b>大切にしていこう。</b>
③	10月	学校行事「松原清掃」	2年生担当の「福祿寿」の松は立派だなあ。これからもずっと自分たちを見守ってほしいな。まだまだ元気でいてほしいから、きれいにするよ。
④	11月	生活「もっとなかよしまちたんけん」 津田公民館、うみの図書館、志度図書館を見学	みんながよく使う地域の場所や施設を詳しく知りたいな。9月に行った町探検の時よりも、質問を詳しく考えたいな。 <b>もっと地域のことを知りたい。</b>
⑤	12月	生活「つながる広がるわたしの生活」 わたしの町のみりよく新聞作り	地域にあるお店や施設、 <b>お世話になった人のことをみんなに伝えたいな。</b> これからも地域の人と交流を続けたいな。

⑥	2月	生活「まちのすてきをとどけよう」	学習発表会で、これまでに体験したことを新聞にまとめて伝えよう。感じたことや1年を通して芽生えた <b>津田への思いを届けたい。</b>
---	----	------------------	---

### イ 3年「香川の味を守りたい」A(5)希望と勇気、努力と強い意志（ふるさと香川）

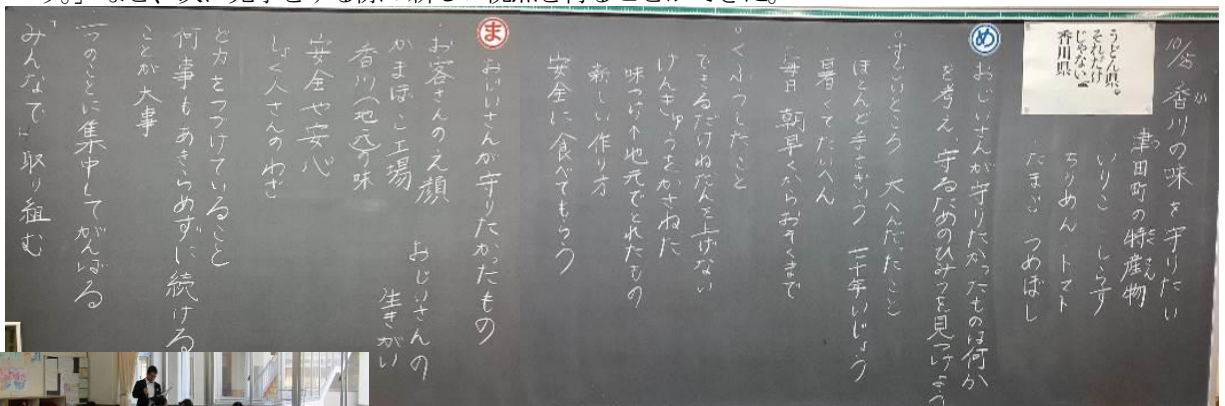
- ②総合「津田町の名物・特産物を調べよう」

「道の駅津田の松原」を見学した際に、津田町にはたくさんのお店の名物・特産物があることに気付いた。「木村海産」を見学した際には、津田町が日本全国、世界につながっていることを知った。



- ③道徳「香川の味を守りたい」(A(5)希望と勇気、努力と強い意志)

資料を読み、津田町で働く人の思いや努力について、苦勞、工夫、生きがいなどの視点から振り返ることで、「見学した風呂農園や木村海産でも同じような思いで働いていた人がいたのではないか。」「自分たちの表現物には働く人の思いは書かれていないな。」「働く人の思いに迫る質問を考えてみよう。」など、次に見学をする際の新しい視点を獲得することができた。



- ④総合「津田町の名物・特産物を調べよう」

「安岐水産」を見学し、道徳で学習した、働く人の思いに迫る質問をしていた。地域で行っているイベントも知り、「参加してみたいね」と話していた。



#### 【 地域道徳学習単元計画（3年） 】

働く人の思いを知ることで、津田町の名物・特産物をもっと好きになろう			
時期	学習内容	児童の意識の流れ	
① 10月	社会科 「店ではたらく人」 ・マルナカ	いつも利用しているスーパーマーケットに津田町で作られているものが置いてあったよ。他にも、津田町で作られているものはあるのかな。	
② 10月	総合的な学習の時間 「津田町の名物・特産物を調べよう」 ・道の駅 津田の松原 ・木村海産	身近なお店や工場を見学してみよう。 津田町には <b>自慢できるような名物や特産物があるんだな。</b>	
③ 10月	道徳「香川の味を守りたい」 A—(5)「希望と勇気、努力と強い意志」	自分の決めたためあてに向かって、あきらめずにがんばりたい。 <b>津田町にも伝統、文化、特産物を守ろうと行動している人がいるのかな。</b>	
④ 11月	総合的な学習の時間 「津田町の名物・特産物を調べよう」 ・安岐水産	「 <b>働く人の思いに迫っていく</b> 」という視点をもって、見学やインタビュー、体験活動に取り組もう。	
⑤ 12月	道徳「ふるしき」 C—(16) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	ふるしきを実際に使ってみよう。「日本の文化」をずっと大切にしたいね。	

⑥	2月	総合的な学習の時間 「津田町の名物・特産物を伝えよう」	津田町の名物・特産物をお家の人や下級生に伝えよう。商品を紹介するだけでなく、働く人の思いや工夫も伝えて、津田町をもっと好きになってもらおう
---	----	--------------------------------	---

#### 4 研究の成果と課題 (○・・・成果、●・・・課題)

##### ①道徳教育の要として他教科や家庭・地域社会と連携しながら地域道徳教育を構想し実施できたか。

- 道徳意識調査から、全校で見ると「友達と協力するのは楽しい」「夢や目標をもっている」「やり遂げて楽しかった」「人の役に立つ人間になりたい」に、肯定的に答える児童が多かった。地域道徳教育の体験的な実践の効果が見られたようだ。
- 生活科「まちたんけん」で津田にある「もの」を視点に探検を体験した上で、道徳「わたしたちの海 瀬戸内海」をすることで、津田町のよさとして「地域で生活している人と自分たちとの関わり」「地域に寄せる思いに気付くこと」「地域の人々に親しみをもつこと」に実感をもたせ、一層ふるさと津田町に愛着をもち、大切にしていこうという心情の高まりが見られた。これらは、生活の場としてのスポット（もの・場所）から、エリア（文化や自然、人・地域）として津田町を見ていこうとするきっかけにもなった。
- 総合的な学習の時間「津田町の名物・特産物を調べよう」で、はじめに行った道の駅や地元の海産工場への見学では、「たくさんの自慢できる特産物がある。」という感想だった。道徳「香川の味を守りたい」の教材を読み、津田町で働く人の思いや努力について、苦労、工夫、生きがいなどの視点から振り返ることで、「見学した風呂農園や木村海産でも同じような思いで働いていたのではないか。」「自分たちの表現物には働く人の思いは書かれていないな。」「働く人の思いに迫る質問を考えてみよう。」など、次に見学する際の新しい視点（ものから人の心情面へと）を得ることができた。
- 地域の良い点と課題点を体験を通して学んでいくことで、自分ごととして捉え、今後自分に何ができるかを考え直す機会になった。
- ふるさと宿泊学習では、津田町の美しい自然を体感し、津田町の人たちの暖かさに触れ、友達と楽しい時間を過ごしたことで、津田町への愛情が深まり、「津田町のために・・・」という思いをもつための土壌づくりができた。
- 社会福祉協議会や学校支援ボランティア、老人保健施設など、地域の人々の協力を得て、高齢者疑似体験や車いす体験、認知症サポーター養成講座を行った。総合的な学習の時間の学びと道徳の価値内容に関連させることで、総合的な学習の時間に体験したことを基に、「思いやりの心とは」等の学びを深めることができた。地域の人との交流を通して、自分たちもたくさんの人に支えられて生活していることに気付くことができた。
- 「津田を元気にしている人たちから学ぼう」というテーマで、インタビューをする人たちを子どもたちが決めた。子どもたちの意見をもとに計画を立てたことが学ぶ意欲につながった。
- 「すなはまフェスティバル」では、応援してくれている家族の存在や地域の方々の思いに触れることができた。津田を元気にしている人々との関わりやインタビューから学んだこと、高校生の助言を通して、全校生やこども園の園児、来場してくれたお客さんに、地域の一員として津田町のよさや魅力を伝えることができた。
- 2年生にとって、地域である津田町は日常的生活の場であり、**気付きはあっても学び（考える）の対象になり得ていない。**⇒ 気付きから問いをもち、学びへと高めていく手立てが必要。
- 「働く人の思いに迫る質問」「これから地域のために何ができるか。」を考えることはできたが、具体的な行動に移していく**時間が足りなかった。**
- 児童の意識のつながりが高まるように、総合的な学習の時間の**内容や体験の時期を見直していく必要がある。**
- 総合的な学習の時間の中で、「地域」という意識づけが不十分であったため、道徳の時間での学びを「津田町」につなげるのが難しかった。**どのような形で学びを地域に返していけるのかを考えていく必要がある。**
- 津田を盛り上げている若者だけでなく、立場を変えて「おじいさん」「おばあさん」「津田の外に出た人たち」の話を聞くことも、郷土愛を育む手立ての一つになる。**様々な立場の人々の話を聞く機会を作っていく。**

## ②「単時間道徳学習」の在り方を、「自分ごとの学び」の視点で見直し、授業の質的改善を図れたか。

- 導入で自分の現状を振り返り、終末で今後の生活に生かしたいことを考え、教材の読み取りの後に自分ごとの時間をしっかりとることができた。
- 「あさがお」は自分の生活とつなげやすい教材であった。教材文を読みながら「みんな〇〇の時のことを覚えてる？」と聞きながら、その時に児童がかいた生活科のワークシートを掲示することで、自分の経験を比べながら教材文を読むことができていた。
- 2年生一人ひとりの津田町に対する思いや魅力に感じていることを引き出せた。町探検での思い出を写真や話し合いを通して、より一層子どもたちと一緒に津田町のよさを考えられた。
- 地域道徳教育として、「自分ごと」について考える時間をしっかりと確保できるように、授業の時間配分を考え実践することができた。
- 今まで何となく行っていた学校行事での「松原清掃」や「海岸清掃」の意味を考え直し、価値付けることができた。
- 板書に思考の跡や必要な資料、言葉が残されていた。意図をもって板書が工夫されており、学習と生活が板書でつながっていた。
- 教材文というのは、教師が読んで示すものであると指導を受けた。子どもたちと内容を共有できるように、丁寧に教材文を読むことは大切だと再認識した。
- 子どもの感想をロイノートで共有することは、発表を苦手とする児童の意見も全体の場で表出できる効果的な実践だった。
- 同じ内容項目の事前授業公開を（高学年同士）した。追求Ⅱでホワイトボードを用いた交流を参観して時間がかかることがわかった。そこで、前半の場面絵を提示するところや追求Ⅰで時間短縮を図り、追求Ⅱで交流する時間を捻出した。客観的に参観することで改善点を見だし、具体的にアプローチをすることができた。
- 道徳意識調査から、全校でみると「道徳の授業が好き」「きまりを守る」「自分と違う意見を考えるのは楽しい」「自分によいところがある」に肯定的に答える児童が少ない。心を育む**単時間道徳学習の見直し、充実を図る**必要がある。
- 相手の気持ちになって考えることは大切である。低学年では、**役割表現を用いて**動植物や相手の気持ちになって考える学びを継続していきたい。
- 1年生は語彙が少なく、発表も単語でしてしまう傾向があるので、**担任が聞き返す**などして考えを引き出す必要がある。その繰り返して、次第によく考えられた詳しい表現ができるようになる。
- ふるさと津田町について深く考えたいという思いが強くなり、教材で考える時間が短くなってしまった。お店の魅力（ものの魅力）で終わるのではなく、「なぜこのお店をやっているのか」「なぜ津田でやっているのか」など、**なぜを通して、人の思いに目を向けていく**と津田町を大切にしようという思いにつながる。
- 中心発問をした時に、半分くらいの子どもたちが難しそうなお顔をしていた。発問の文が長く、伝わりにくい文であったと感じた。分かりやすい**発問を吟味**し、同じ発問を何度も繰り返さないように意識したい。
- 「自分ごと」の時間を確保した分、本来の価値に迫り切れていない部分があった。**教材文での心情の読み取りも丁寧に**する必要がある。
- **時間配分**に苦慮した。教材の読み取りをじっくり行くと、自分ごととして考える時間が少なくなった。
- 児童の**タブレット**の中に、体験学習や校外学習の**動画や写真を蓄積**していき、道徳の授業の中で児童自身が主体的に振り返ったり、考えを深めたりすることで、自分ごとの学びにつながる。

### 改善点

- ・教材文の読み取り（追求Ⅰの効果的な方法）
- ・時間配分の工夫
- ・効果的な ICT 活用
- ・分かりやすい発問の吟味、子どもたちの考えを引き出す問い返し
- ・追求Ⅰ（教材で考える）から追求Ⅱ（自分ごとで考える）へのつなぎ
- ・「生活、総合」での体験を振り返る導入、「生活、総合」の実践につなげる終末の工夫